

部門プログラムの見直しについて（提案と意見募集）

1 はじめに

2016年に策定された長中期計画「BS部門・VS部門一体化を含むプログラムの見直し」「現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し」によるプログラム実証の取り組みから2年が経過しました。その間、部門改定について様々なご意見や助言をいただきました。

コロナ禍で活動に制限があり、十分な実証展開が困難ではありましたが、2つのタスクチームによりまとめられた実証内容報告をもとにプログラム委員会で検討し、全国コミッショナー会議にて総合的な部門の見直しとプログラムの取り組みについて提案を行います。

本提案に、各都道府県連盟の状況を反映させ、次年度の全国大会には新部門プログラムと指導者訓練の改定スケジュールを公開説明し、2022年4月の試行開始を目指します。

2 見直しの経緯

日本連盟創立100周年を目指した長中期計画にて「現状の青少年の発達段階、学校学年制、グローバル社会の進展などを考慮した部門の見直し」が戦略的優先事項として示され、プログラム委員会では各部門の検討タスクチームを編成し、プログラムとスカウトの年齢区分見直しについて検討を進めてきました。

BVS・CS部門は、2018年（平成30年）12月から実証団の選出と説明会を行い、3か月間の研究集会を経て、2019年（平成31年）4月から約1年間にわたってプログラム実証を行い、BVS年代の年代見直しを含めた総合的な見直しの提言を取りまとめました。

BS・VS部門は、2019年（令和元年）5月から情報発信を行い、7月に実証団の選出と説明会を行い、9月からプログラム実証を行っている中で世界的な感染症拡大に伴い、各団において実施できず中の隊運営の取り組みと2度の実証団集会から得られた意見・評価から見直しに向けた取り組みを行いました。

3 部門プログラムの現状

部門の見直しは、スカウトの成長ニーズと興味・関心に応えられるような時代に即したプログラム内容の見直しを図ることを主眼に、年代区分の見直しとその取り組み内容を実証してきました。新たな提案に基づく取り組みを各団で展開する中で、それぞれの効果と課題が浮き彫りになりました。

コロナ禍におけるスカウト活動も引き続き実施が求められる中で、現在実施しているプログラムの大幅な変更は、活動を行う隊や団の負担が増すことも分かっておりますが、一方で、CS隊からBS隊への上進率と、富士スカウト章の取得割合は毎年低下していることも事実です。

上進などの隊の運営も含めた既存のスカウト活動の把握と状況に応じた対応を行ったうえで、新しい提案（プログラム）に取り組んでいく必要があることから、プログラム委員会としての検討だけでなく、団支援・組織拡充や指導者養成の観点などより多くの視点による取り組みと、活動を実際に行う各都道府県連盟のフィードバックをもとに部門プログラムの見直しを進めていくこととし、今回の提案と意見募集を行うこととなりました。

4 見直しの検討と実証

4.1 プログラム実証隊の編成

	BVS・CS部門	BS・VS部門
実証団の数	3 県連盟 7 個団 (埼玉・神奈川・東京)	7 県連盟 14 個団 (栃木・埼玉・神奈川・東京・愛知・兵庫・奈良・福岡) ※2020 年 4 月から福岡県連盟より 1 個団減、愛知連盟にて 1 個団追加
実証団への説明会 および実証団集会	説明会：2018 年 12 月 15 日 その後 6 回の実証団集会を開催	説明会：2019 年 7 月 27 日、28 日 その後 2 回の実証団集会を開催
実証の期間	2019 年 4 月～2021 年 3 月まで	2019 年 9 月～2021 年 3 月まで
実証のポイント	隊の年齢区分を変更して運営 BVS 隊：年長年代 CS 隊：小学 1 年～小学 4 年	BS 隊・VS 隊を 1 つの隊として運営 隊長：1 人 (全体総括) 副長：各 1 人 (部門担当)
活動方法	年代ごとの隊活動の他、合同活動を実施し、時間の中で隊ごとの活動時間を設ける。上の年代のスカウトとの団集会を実施する。	BS は班活動を中心、VS は上級班長などのジュニアリーダーと高度な野外活動や社会貢献活動に取り組むグループの選択制とする。
募集要件	(なし) タスクチーム員の在籍する団と日本連盟で選出した団に依頼。	団の規模が一定以上であること BS 隊：2 班 12 人以上 VS 隊：4 人以上
隊・団への支援	該当地区コミッショナーが実証団集会に参加して、情報の共有を行っている。	県連盟の担当者を明確にして、当該団の情報共有と支援を行う。

4.2 プログラム実証報告

◎BVS・CS部門

総合的な年齢層の見直しとして、BVS部門をエントリー部門として幼稚園・保育園の年長児童を対象年代とした1年間、CS部門は1年生から4年生とした4年間のプログラムと設定し、事前に検討した「進歩の目標」「隊運営のポイント」に応じたプログラムを展開し、それらによって得られた情報・評価から、タスクチームとしてのプログラムの実証を行った。

<プログラムの新しい視点と効果>

①団集会：年長のスカウトの姿を見せるためスカウトスキルを活用した集会や行事を実施

スカウト、保護者、指導者ともに評価が高く、開発の余地が大きい。組織拡張のきっかけと運動の理解に繋がる。

②合同活動：少人数の隊は、ビーバー隊とカブ隊での合同活動を展開

団集会と同様に効果が期待できる。

③グループワーク：少人数、短時間であっても、集会の中にグループワークを必ず入れる

CS隊の組数の増加により、スカウト運動の本質であるグループ活動が活性化した。さらに、縦割りの合同活動によって、デンコーチ等のジュニアリーダー活動も確保された。

④問題解決型活動：活動への動機付けを高めるために、現実的な課題（答えのない問題、課題）の活用やグループでの達成を目指す実行力を養うためのプログラム

活動への動機付けを高めるため、創造性や自主性、協調性を育む可能性が認められた。

⑤親子参加：親子体験のプログラムを取り入れ、保護者との関わりを持たせる

保護者がウッドクラフトの魅力を体験的に理解し、自身の子どもがスカウトとしての将来に向けた成長を実感できる場となることが確認された。

⑥組長・次長の役割：目指すべき姿と進歩の目標を意識した展開と年長年代の役割の明確化

この2点を常に指導者が意識することで、スカウトの成長が期待できることが分かった。

<意見および課題>

- ・ B V S隊での年長児4月からの受け入れは、スカウト本人の体力面、理解面で難しく、指導者の負担だけが増す結果であった。
- ・ B V S隊の年齢区分について、学年の区分を超えることについては教育関係者へのヒアリングにおいて問題にはならないとの意見があること、小学生半年の成長により、一年生であっても下の年代をリードすることができたことから、複数年での実施も可能である。
- ・ C S隊としては、学校では先導する立場になりにくい小学4年生を上級生とすることで、他の団体にはないメリットとして考慮することができる。

◎BS・VS部門

両部門を通して1つの隊として運営を行いつつ、BS部門は班活動を中心にハイキングやキャンプを軸とした活動的なプログラム、VS部門はジュニアリーダーとしてのリーダーシップを養うプログラムと、スカウト技能を生かした高度な野外活動や社会貢献につながるプログラムを行うことにより、一体化を含むプログラム見直しの有効性について実証を行った。

<プログラムの新しい視点と効果>

①実証計画：隊の実情に合わせた隊運営計画と立案し、定期的な実証団集会を開催

共通認識を持ったうえで、全国規模でプログラム実証に取り組んでいること、また定期的なオンラインでの実証団集会による意見交換もスカウトの意欲向上につながった。

②ジュニアリーダーの活用：手引きを参考に上級班長を中心とした隊運営を意識して展開

スカウト主体の活動とするため、指導者の関わり方を見つめなおす必要が再認識でき、指導者の適切な関与とジュニアリーダーのトレーニングにより、活動の活性が期待できる。

<意見および課題>

- ・ VS隊は、ジュニアリーダーとして活躍することによって、BS隊・VS隊ともにスカウトの意欲や成長に対して効果が非常に大きいことを改めて確認ができた。
- ・ 一方、ベンチャースカウトにジュニアリーダーとしてBS部門の隊運営に活躍してもらうためには、打ち合わせやトレーニングに多くの時間がかかり、ベンチャースカウトとしてのプログラムのための時間を作りにくいとの意見が多く挙げられた。
- ・ BS隊とVS隊を1つの隊として運営する一体的な運営方法は、隊の人数、年齢構成に大きく左右されるため、一定形をもって示すことが困難なことであることが見えてきた。
- ・ BS隊とVS隊の年代区分についてはその区分けを維持し、上級隊であるVS隊も含めた上級班長などジュニアリーダーを活用した隊運営を行うことで、それぞれの年代の教育目標に応じた活動を進めていくことが重要であるとの意見が多く挙げられた。

5 部門プログラム見直しの提案

二つのタスクチームによるプログラム実証で得られた結果と、スカウト教育法の特徴から、思春期の青少年の成長ニーズに相応しいものとして、日本連盟としての総合的な部門の見直し、プログラムの取り組みについて以下のとおり、提案します。

隊・部門	期間	年数	特徴
ビーバースカウト隊 (遊育エントリー部門)	年長年代 4月～ 小学 1年 3月 ※ <u>一年引き下げ</u>	2年	集団での遊びを通して自然に親しみ、基本的な生活技能や社会性を伸ばす年代
カブスカウト隊 (プレスカウト部門)	小学 2年 4月～ 小学 4年 3月 ※ <u>一年引き下げ</u>	3年	スカウト活動に入る前段階として、組や隊での異年齢による集団への適応をねらう年代
ボーイスカウト隊 (スカウト部門)	小学 5年 4月～ 中学 3年 3月 ※ <u>一年引き下げ</u>	5年 ※ <u>一年追加</u>	班による自治活動と自発活動を通して、地域社会での公民性・社会性を養う年代
ベンチャースカウト隊 (ハイアドベンチャー部門)	高校 1年 4月～ 高校 3年 3月	3年	自己目標の発見と自主活動を通して、社会の中における個人としての成長を図る年代
ローバースカウト隊 (研究・社会貢献部門)	18歳 4月～ 25歳に達する 3月	8年	自己の探求と研鑽を行いながら、成人として社会に奉仕する精神と体力を養う年代

※ 「月の輪」は廃止とし、BS 隊への上進に合わせて初級スカウト章に取り組む。

6 今後のスケジュール（見直しのプロセス）

2021年1月の全国県連盟コミッショナー会議での説明を経て、県連盟内での意見募集（パブリックコメント・回答期日：5月10日(月)）をお願いします。同年5月の全国県連盟コミッショナー会議で報告いたします。その後、いただいた意見をもとに最終的なプログラム内容をまとめ、2022年4月時点での新制度の試行が開始できるよう、情報配信と県連盟での試行団の選出を進める予定です。

タスクチームについては、現在取り組んでいるプログラム実証の取り組みについて委員会として見直しを行い、必要に応じて新たなタスクチームを設定し、必要な取り組みを行います。

2021年1月17日 全国県連盟コミッショナー会議での部門見直しの説明、意見募集

2021年5月 全国県連盟コミッショナー会議での集約意見の回答
指導者訓練の改定スケジュールの説明

2021年10月 全国県連盟コミッショナー会議での見直し内容の了承
県連盟代表者会議での同内容の了承

2022年4月 プログラム：新制度の試行スタート
指導者養成：新制度に合わせた新訓練試行の提供

2023年4月 プログラム：新制度の提供スタート
指導者養成：新制度に合わせた新訓練の提供スタート

以上